

第2期 第2回中野区人権施策推進審議会 会議録

I 日時

令和7年2月28日（金） 午後7時から午後9時まで

II 場所

中野区役所 7階 701・702会議室

III 次第

1 中野区人権施策推進審議会

- (1) 岸会長より
- (2) 宮川副会長より
- (3) テーマ発表（石井委員）
- (4) 所管課長からの報告
- (5) テーマに関する審議
- (6) 本日のまとめ

2 事務局からの連絡

IV 出席委員（9名）

岸磨貴子（会長）／安部泰起／石井富美子／小川智康／小山奈美／佐藤清一郎
白土純／中村敏子／永野靖

V 事務局

岩浅英樹	企画部長
大場大輔	企画部ユニバーサルデザイン推進担当課長
久島知子	企画部企画課平和・人権・男女共同参画係長
中堅誠也	企画部企画課平和・人権・男女共同参画係

VI 出席職員

河村陽子	地域支えあい推進部地域包括ケア推進課長
高橋かほる	医療・介護連携推進担当課長
細野修一	健康福祉部福祉推進課長

事務局

定刻となりましたので、第2期第2回中野区人権施策推進審議会を開催します。各委員におかれましては、ご多用のところご出席をいただき誠にありがとうございます。私は、事務局を務めます、企画部 ユニバーサルデザイン推進担当課長の大場でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日、出席されている委員の人数は9人となっております。委員会総数10人の過半数を超えておりますので、条例の規定を満たしており、有効に審議会は成立いたします。

はじめに配付資料の確認をさせていただきます。尚、今回の審議会よりペーパーレスの観点から審議会資料については、お手元のタブレットにてご覧いただきます。

・（配付資料の確認）

不足、不備等はないでしょうか。よろしければ進めさせていただきます。それでは、次第1「中野区人権施策推進審議会」に進ませていただきます。また、今後の進行は岸会長にお願いできればと考えています。岸会長、よろしくお願いいたします。

岸会長

皆様どうぞよろしくお願いいたします。スケジュールに沿って21時には終われるように進めさせていただきます。

まず初めに審議会の進め方についてお伝えをさせていただきます。この審議会は皆さまの意見をもとに作り上げていく審議会にしていきたいと考えています。その中で、それぞれお持ちの知識や経験が違ふことで、相手の発言に対して反対意見を言いたくなることもあると思います。ただ、そのような場合でも相手の発言を一旦受け止めることを意識していただきたいと思います。次にコミュニケーションのキャッチボールを意識していただければと思います。審議会に出た意見は最終的に意見書という形でまとめさせていただきますが、その際に誰かの意見ではなく審議会委員皆の意見で作成したいと考えています。最後に「わたし」視点で話していただきたいと思います。誰かの話ではなく私視点で発言をしていただけると助かります。

次に「高齢者の人権」についてお伝えをさせていただきます。本日宮川委員が欠席となりますので私から代理でお伝えをさせていただきます。

前回、事務局からお配りいただいた「みんなの人権」の冊子に基づいてご説明をさせていただきます。この冊子の「豊かな高齢社会を実現するために」と記載があるページに「高齢者の生活上の問題」「高齢者の虐待」「成年後見制度」と記載があります。これ以外に私が重要だと感じていることは、より豊かに生活をするという観点で健康福祉に関することです。次に尊厳です。本日高齢者の方とキムチを作る体験をしましたが、そこに参加した方が「高齢者だからといって支援されるだけではなく、社会に貢献していきたい」とお話しされていて尊厳の大切さを感じました。また、差別・偏見の観点から「高齢者だからこうあるべきだ」のような固定概念もよくないと感じています。他にもデジタルや情報へのアクセスも重要だと感じています。社会参加の観点は孤立防止にも重要だと思います。

では、次に石井委員から「高齢者の人権」についてテーマの発表をお願いしたいと思います。その前にここまでの話の中での感想等を委員から聞きたいと思っています。

小川委員

前回の審議会から時間が空いてしまったので、記憶を呼び起こしながら発言できればと

思います。「高齢者の人権」は今まで自分の身近になかったテーマです。今回の審議会を通して、学びながら楽しんで参加できればと思います。

小山委員

今まで私が参加した審議会は配付された資料から議論することが多かったですが、今回のように皆さんとディスカッションすることは初めてなので楽しみです。

岸会長

ありがとうございます。では、石井委員発表をお願いいたします。

石井委員

はじめに、本日の審議会の貴重なお時間をいただき、話題提供者として、東京都の「みんなの人権」に記載されています「豊かな高齢社会を実現するため」を念頭に、高齢者当事者の立場で、自分及び同世代の現状における思いや考え等を、住民目線で、率直にお話しさせていただきますことに、感謝いたします。

さて、「ゆりかごから墓場まで」よく知られているこのスローガンは、第2次世界大戦後のイギリスにおける社会保障政策のスローガンで、日本の福祉制度や社会保障政策を表現する際にも用いられ、出生から死亡まで、すなわち、人間の一生を通じての保障制度を充実させることを、目指すものです。しかし、現在は、2025年問題とされた団塊の世代が、後期高齢者となる超高齢社会となり、次は、団塊ジュニア世代が、65歳以上となることで予想される危機を指す2040年問題が、取りざたされています。2040年には、65歳以上の高齢者の割合が過去最大の35%となります。ちなみに、2023年6月は29%です。

このような背景において、本審議会で、何を議論したいか、何をやってみたいのか、何に関心があるのか、なぜ、それが必要だと思うのかを述べます。

まず、何を議論したいかですが、超高齢社会の日本において、今後、高齢者の人権に関わるさまざまな問題が、より多く発生すると危惧します。当たり前ですが、人間として一生を過ごす中で、ひとりひとりの尊厳が重んじられます。如何にその人らしく、心身共すこやかに、人生への感謝、恩送りができる日常を過ごしながら、寿命を全うできるかが大事です。高齢者の人権問題の多くは、全てではないとしても、健康や経済面のきびしい状況から起こると思います。特に健康面で支障をきたすことは、心も病んでしまうことにもつながり、社会的弱者となることも危惧します。そして、人権問題が発生するリスクは、高くなります。そこで、既に、多くの場面で、認識されてはいますが、改めて、平均寿命ではなく健康寿命延伸の重要性を、提議いたします。だれしも一様に、人生を謳歌するため、長生きできればと思う中、健康寿命は必須です。よく言われるワード「ピンピンコロリ」や「生涯現役」にも通じます。また、高齢者に限った問題ではなく、いずれ、高齢期を迎える全世代にも関わります。超高齢社会を、前向きに捉えるポイントは、健康寿命延伸と確信いたします。健康寿命を延ばすための取り組みは、生き生きと自立した生活が送れる、やむを得ず要支援となっても、介護を要する状態の軽減または悪化の防止となります。大げさですが、健康寿命延伸は、介護現場の人手不足解消、介護保険料減、そして、人権問題発生を抑止力となりえるのです。

次に、何をやってみたいのか、何に関心があるのかを、述べます。審議会では、施策案を論じるのではないことは、重々承知しておりますが「事前の一策、事後の百策に勝る」です。健康で過ごす時間を増やすために、何が効果的なのかを考えます。ひとりひとりの努力はもちろんですが、地域全体でのサポートも欠かせません。昨今、認知症予防面での

フレイル予防が、広く認識されてきています。その他、多くの施策や活動が、公的機関や地域コミュニティ内で実施されています。しかし、既存の施策に加え、よりC Pや参加度数が上がる切り口がありそうです。例えば、企業や大学と地域コミュニティ間のつながりからの新たなアイデア、医師会や薬剤師会との更なる情報共有、介護現場等での人手不足を高齢者自身も支援される側だけでなく、支援する担い手となる等、突破口になりえるのではと考えます。そこで、現実の状況をふまえ、参加意識を向上させ、より高い効果を引き出せる案を、いくつか説明いたします。時間の関係ですべてではありません。

オンライン井戸端会議についてです。公的、非公式で実施します。高齢者間でも、コロナ禍を経て普及している Zoom を利用します。メリットは、天候に左右されない、デイサービスと併用できる、おしゃべりしたい心理を満足させ元気につながる、ミニ情報が得られ話題が広がる等です。今まで、タブレット利用講座が開かれていますが、スマホ利用度合いが高いので、スマホやパソコンによる参加方法をサポートする機会をふやし、時には、地域包括支援センター、町内会、医師会、薬剤師会等の担当者の同席もよいと思います。アプリの利用料補助があると普及率が上がります。

次に遠隔サポート、講座、情報発信です。docomo の遠隔サポートについてです。月額 400 円で遠隔で操作してくれます。プロが親身に対応してくれるので、知識が増し安心が得られます。スマホの使い方、SNS に関することのみならず、怪しい電話やメールに対する対応も充実しており、セキュリティ対策となります。待ち時間少なく休日でも営業しているので、家族不在時等、タイミングよく相談ができます。プランに関係なく契約でき、docomo 以外の会社でも実施しているようです。契約者は、増加傾向にありますが、危機管理の一環として、広く認識されればと思います。自治体が民間企業と協力することで、住民の安全を守る対策の一助になります。

次に表情筋トレーニングについてです。一部の区民活動センターで実施しており、顔の筋肉を鍛えることで、笑顔の意識が高まります。男性の参加者が増えていますが、理由は、まわりから、頑固、堅い印象と思われることを打破したいとのこと。表情筋トレーニング後の笑顔は、写真撮影でも効果絶大です。「高齢者の笑顔あふれる中野区へ」を目指します。誤嚥予防、滑舌悪化防止、口腔ケア、脳トレにもなります。

次にLINEの情報発信についてです。LINEの利用率について、2024年1月調査によると、60代は80.1%、70代は72.7%です。一部の地域包括センターで専用アカウントが存在しますが、区の公式LINE内に、高齢者専用を設置し、タイムリーな情報発信及び双方向でのやりとりが、効果ありと思います。先に開催された中野区若者会議報告会で発表していましたが、全世代を通して、せっかくの情報が伝わっていない場合が多いとありました。高齢者に関しても、楽しみに継続して閲覧してもらう工夫が必要だと思います。

次に居場所作りについて、次の2例です。1つは、地域活動、ボランティアへの参加についてです。支援される側でなく支援する側になることでモチベーションアップとなります。例えば、介護現場の人手不足を高齢者同士で支え合う、世代間交流の場面で高齢者が担い手となる。お金が目的でないとしても、少しでも報酬があれば、やりがいにつながります。ナカペイで、ポイントが得られる等です。2つ目は、着物・帯等使わない物を利用した活動の実施についてです。家の中の整理片付けは、心身両面での健康や生活の質の向上、防災への備え等メリットがあります。今の高齢者世代は、着物や帯を保管している度が高いですが、リサイクルの需要は少なく、ゴミとして処分しているケースもあります。着物や帯生地を利用し、区民活動センター等に集まり、ファブリックパネルを作成します。作成行程は、主に生地を貼り付けるだけなので、誰でもできます。作成しながら、集うことが目的でもあります。完成品は、和テイストなので、インバウンド面で販路が期待できます。

売り上げ一部を、区に寄付、不要品片付けが、SDGs となります。

なぜ、それが必要だと思うのかを述べます。孤立/孤独問題・いきがい面では、居場所づくり、コミュニケーションの場、緩やかなつながり、生前整理等です。健康の問題では、健康増進活動、交流の場、情報発信です。デジタルディバイドでは、誰ひとり取り残さないデジタル化が重要です。デジタル講座の実施、犯罪防止、必要な情報の入手、支援・助成の申請、社会参画です。

今まで述べました内容は、すべて、高齢者が心身共すこやかに過ごせる要素が含まれ、冒頭提議した健康寿命延伸となります。健康寿命延伸を、より広くアピールするには、区民に興味をもってもらい、取り組んでくれることが不可欠です。そこで、昨今、Z世代間で使われている「〇〇界限」を利用したと思います。仮として「ポジティブ・エンジシング界限」です。他に「ヘルススパン・プロジェクト界限」「サクセスフル・エイジング界限」「スマート・エイジング界限」です。

以上で、話題提供者としての説明を終了いたします。ご清聴ありがとうございました。

岸会長

ありがとうございました。議論・ディスカッションする為の材料をたくさん提供していただくことが出来ました。では、担当課長の説明前に委員の皆さんからも感想等をお伺いできればと思います。

白土委員

私自身が今年に前期高齢者の仲間入りをしますので、石井委員のお話は興味深かったです。やはり人とのつながりが社会参画の一つだと思いますが、特に男性の場合は退職をすると目標をなくして燃え尽きてしまう方もいると思います。趣味やボランティア参加でも良いので社会参画することが重要だと思います。ただ、いざ自分が高齢者になったときにどのように社会参画をするかは考えておらず不安も感じています。

永野委員

私も前期高齢者の仲間入りなので大変興味深かったです。デジタルディバイドについては、私自身も弱い点があります。仮に大震災が起こった際にデジタル機器が使えるかは高齢者にとって死活問題だと感じています。また、高齢者のLINE利用率がここまで高いのは驚きました。

岸会長

ありがとうございます。では、担当課長の説明パートに進みます。よろしくお願いいたします。

【資料2説明（地域包括ケア推進課長 河村陽子）】

【資料3説明（医療・介護連携推進担当課長 高橋かほる）】

【資料4説明（福祉推進課長 細野修一）】

岸会長

ありがとうございました。では、10分の休憩をはさんで審議会を再開させていただきます。よろしくお願いいたします。

・休憩（19時45分～19時55分）

岸会長

時間になりましたので、再開をさせていただきます。

では、まずは石井委員の発表内容に関して各委員から意見を頂ければと思います。佐藤委員お願いいたします。

佐藤委員

区の説明の中には初めて聞いた話が多くてとても役に立ちました。今、区民活動センターの建替えに伴い、中高生の居場所作りを検討していますが、高齢者の居場所作りも課題だと思っています。中野区にも高齢者会館等はあると思いますが、あまり活用されていないと感じています。また、お話の中にボランティアへの参加とありましたが、地域としては町会に参加してほしいけど参加者が少ない状況です。なぜ参加者が少ないのか、その要因は気になるところです。

岸会長

私も外国人向け日本語教室を実施していますが、参加者集めに苦勞をしています。最近では場所を作るだけでは参加者は来ないと感じています。

河村課長

先ほど石井委員のお話の中にもありましたが、役割が重要だと思います。場所があるだけでなく、役割も合わせて準備しておくことが良いと感じています。ただ、その役割が負担感の大きいものだと参加のハードルが上がってしまうので、今、私の中で大事だと思うのは、ゆるいつながりをどうやって作っていくかです。

石井委員

私もゆるいつながりは重要なキーワードだと思います。ゆるくてもいいから人とつながることはとても大切です。

岸会長

その人の得意な事が見付かって、そこからゆるいつながりを形成するのが良いと思いました。ただ、今皆さんが言っていた取組は「区がやるのか」「地域・民間がやるのか」のどれが良いと思いますか。

高橋課長

私の部署では認知症の方の支援も行っていますが、その中で「なかのオレンジカフェ」という取組があります。認知症の方が自由に参加出来てお茶を飲みながらお話しできる場所です。区内に20か所ございますが、区が主体で実施しているのは中野四季の森公園のスターバックス会場の1か所のみです。介護事業所の方や有志の方が実施しているオレンジカフェが多く、区は緩やかな支援しか出来ておりませんが、とても好評な取組です。区が大きく関わらずに運営をしていく良さもあるのではないかと考えています。

岸会長

私も有志や町会が実施することを区が支援するケースが良い場合もあると思います。

佐藤委員

今、小学校の現場では花壇の整備を手伝ってくれる人を探しています。こういった需要があった際にどのように人を集めればよいか知りたいです。

石井委員

区内には高齢者の活動グループがたくさんあるのでそこに声をかけるのはいかがですか。

佐藤委員

それだと参加者が固定化されてしまうと思います。私としてはもっと広く、多くの人を募集したいと考えています。

石井委員

お孫さんにつながる為等にLINEを利用している高齢者は多いです。LINEのアカウントから情報提供するのが良いと思います。現在、南中野地域包括支援センターのLINEアカウントがあり、そこからイベントや福祉の情報が発信されています。ただ、情報を出しても見てくれない課題もあります。また、高齢者の方は区内の掲示板もよく見ていると思います。

佐藤委員

LINEの仕組みをよく把握できていないのですが、友達登録をしていなくても情報を配信することはできますか。

岸会長

LINEビジネスを使えば出来ると思います。また、情報の発信については、オンラインだけではなく、オフラインも活用しながら固定化せず進めていくのが良いと思いました。他の委員でご意見ある方おられますか。

中村委員

まず、このような形で審議会をするのがすごく新鮮です。

石井委員が発表してくださったテーマは、まさに自分の問題だと感じています。最近は友達から会えるうちに会いたいと良く連絡が来ます。友達と会って話すのは、年金のこと、孫のこと、これからどう生きたいかを話題にすることが多いです、健康寿命も皆気にしていました。また、友達との会話の中で感じたのは、夫婦の仲が良くても夫とずっといるのは煩わしい、一人の時間を求めている奥さんが多いということです。最近特に高齢者でも元気で活発な人は多いです。その中で話し相手が欲しいと感じている人が多い印象を持っています。課長さんが話していただいた中にあったサードプレイスは私も重要だと感じています。空き家を活用してそのような場所を作るのも良いです。自宅から近所ではなく、少し離れた場所に居場所を作るというのも重要だと思います。

佐藤委員

サードプレイスや居場所について、区活でやっているサロンではだめでしょうか。

中村委員

サロンとはなんでしょうか。

細野課長

誰もが参加できるカフェ的なサロンを区民活動センターでやっています。

佐藤委員

サロンのような居場所はたくさんあると思います。なので、地域に居場所が無いというわけではなく、皆さんが希望している居場所がないのかもしれませんが。高齢者会館も場所はあるけど利用者が少ない状況だと思います。

中村委員

まったく知らない人と関わるのは抵抗があるのかもしれませんが。少しでも共通項がある人とつながりたいという要望があると思います。誰もが参加できる場所というのは逆に参加しにくい気がします。

岸会長

私も同じ興味関心がある人たちだと集まりやすく参加しやすいと思います。ある程度枠を設定することで逆に参加しやすくなると思います。居場所だけではなく、それを活かせる制度や枠組み作りもとても重要だと感じています。

小山委員

社会福祉協議会でも居場所作りには取り組んでいます。居場所作りは活動のステップとしては実施しやすいです。だからこそ居場所はたくさんあります。一方、参加者は少ない状況です。しかし「居場所が少ない」と言う区民の方もいるので難しい所ではあります。また、皆さんが言っていたように、今は「テーマ」「開催時間」「知っている人がいる・いない」等、ただ居場所を作るだけではなく、様々なニーズをキャッチし工夫をして実施することが重要だと感じています。また、今まで居場所に来ていた人が急に来なくなった際にどのような対応をするかも重要だと感じています。

岸会長

多数ある居場所がそれぞれどのような特徴があって、参加することでどのようなメリットがあるのかをうまく宣伝できると、参加者側も選択が出来て良いと思います。

佐藤委員

居場所の情報を簡単に掲載できるものがあると便利になりますか。

小山委員

はい、良いと思います。社会福祉協議会でも日時、場所等は案内していますが、それ以上のことは上手く発信できていないです。

中村委員

区民の方のニーズが多様化しているので、居場所作りは難しいと思います。ただ、まずは小さな集まりでも良いから参加してもらえると良いと感じました。また、ただ集まるだけではなく、そこから関係が広がっていくと良いと思いました。

岸会長

ありがとうございます。では、次は安部さんにお伺いしてみたいと思います。

安部委員

友人から聞いた話ですが、お母様は非常にアクティブでよく外出するそうですが、お父様は家にいることが多いタイプだそうです。ただ、家にいることを苦痛だと思っていないらしく、むしろその生活が快適だと感じており、外に居場所があっても望んでそこに行くことはないそうです。全員がこのような方だとは思いますが、健康な高齢者は無理に外に連れていく必要はないと考えています。ただ、居場所作りの取組は継続し、情報を発信し続けることは重要だと思います。ただ、出てこない人を無理に出てこさせる必要はないとも思います。

白土委員

今お話を聞いていて、女性は場所と機会があれば積極的に外に出ていくと感じています。だからこそ男性の居場所を作ることが重要だと思います。先ほど見せて頂いたデータでも虐待の加害者は男性が多いとありました。国際交流協会でおこなっている事業の参加者も7～8割は女性で男性は2～3割程度しかいません。高齢期の男性が活躍できる場が必要だと思います。やはり人と会って活動することで心身ともに健康になっていくと思います。

岸会長

健康な時は問題ないと思いますが、ニーズがあるときに慌てて居場所を作るのではなく、居場所は用意しておいて同時に情報を発信し続けることが重要だと思いました。

永野委員

私も外に出たくない人に無理強いする必要はないと感じています。ただ、問題を先送りにする人が一定数いると思います。現時点で仕事がある人は特に当てはまります。仕事があるうちは人間関係がありますが、仕事がなくなったり、終わったりした後のことを考えていない。企業に勤めているうちに情報が収集できる仕組み作りが重要だと思います。例えば、地方自治体が企業に働きかけ、企業が中高年の従業員に対し研修を行うなどして、中高年の従業員に問題を先送りせず、仕事がなくなった後の自分の生活がどうなるのかを考えるよう促すことが必要だと考えています。

中村委員

男性が人生会議（ACP）を積極的に活用すればよいと思います。ただ、男性はそのようなことを敬遠してしまうかもしれません。男性は過去の事をよく語りますが、未来は語る人は少ない印象です。

白土委員

私自身も仕事をリタイアしたときに何をしたいかすぐに言えない状況です。また、私の住んでいる地域は町会がありません。先ほど永野委員が言っていたように問題を先

送りにして考えていないと思います。実体験から家に籠ってしまう心理もわかります。

佐藤委員

私自身は安部委員の友人のお父様と同じような性格だと思います。このような審議会の場があるから外に出ていますが、外に出たいという強い意欲はありません。一人でも平気です。自分の能力を活かせるのであれば外に出やすいので情報発信をする際は「こういう人を求めています」という情報発信があると良いと思います。また、一番危険なのは高齢者のセルフネグレクトです。自暴自棄になって孤独死しないような対策が重要だと思います。

岸会長

課長さんのお話の中であったサードプレイスですが、このような場所で職場、学校、家庭とは違う自分が楽しめる場所が「学びほぐし」の観点で重要だと思いました。

それでは次に小川委員ご意見ございますか。

小川委員

先ほど岸会長が「学びほぐし」と言っていたいただきましたが、私もその取組に興味があります。アンラーニングという考え方はご存じでしょうか。今まで学習したことを忘れるのではなく、ストレッチさせて新しい考えを導き出すことです。定年等で社会から一旦リタイアした高齢者の方達が次のステップに行くための学びが必要だと思います。今までの経験だけで次に行くのではなく、新たな学びを積極的に行うことが重要です。

石井委員

その学びの為に中野区では、なかの生涯学習大学があります。私も参加しました。以前はとても人気がありましたが、最近は定員を下回っている場合もありと聞いています。良い取組だと思うので参加者増を期待します。

岸会長

私も過去になかの生涯学習大学を担当したことがあります。参加者の方から「学びほぐし」があったと言っていました。今までやってきたことを捨てるのではなく、今までの経験を活かして学んでいくことが重要だと感じました。

佐藤委員

なかの生涯学習大学への参加はハードルが高いイメージがあります。大学のオープンキャンパスのようなものを例に気軽に参加できるイベントを実施するとよいと思います。

岸会長

明治大学のダイバーシティフェスのように気軽に参加できるものがあればよいと思います。

安部委員

先ほどお伝えした友人のお父様ですが、時には外に出ることもあるそうです。それが勤め先のOB会です。強制参加だったらしく嫌々ですが参加していたそうです。なので、少し無茶な提案ですが、65歳になったら強制参加の義務教育のような場があればよいと思

いました。参加するとポイントがもらえる等のインセンティブがあってもよいと思います。

石井委員

区民活動センターで実施されている表情筋トレーニングとヨガに参加しています。どちらも好評で人気があります。参加者の多くが女性ですが、ヨガに関しては男性のみの講座を実施してほしいという要望があるそうです。講座を企画運営する運営委員会に今以上に予算を投じて男性のニーズに特化した講座を開催すれば、男性の参加率も上がると思います。

高橋課長

区の事業でも男性専門の講座があります。「スポーツボイス」というものです。カラオケの機材を使用して声を出す講座で野方の区民活動センターで実施しています。参加者からの満足値が高く好評です。

石井委員

お三方の男性委員からのご発言にもありましたが、一定のニーズはあると思うので、男性がより参加できる講座を増やしてほしいです。

岸会長

先ほどの安部委員の発言になりますが、ある程度強制力を持って参加する講座があるといいと私も思いました。勤め先を退職すると参加しなければいけない等の講座があると良いと思います。

小川委員

皆さんの発言をお伺いし、今回は高齢者の問題でしたが本質的な部分は世代関係なく皆が抱えている問題だと思いました。若者と高齢者の施策をコラボして進めていくのも効果的ではないかと感じました。

岸会長

では、最後に本日参加を頂いた課長さんから今日の審議会で参考になったこと等があれば発表をお願いいたします。

河村課長

皆様のご意見は参考になることが非常に多かったです。また、審議会をこのようなワークショップ形式で行っていることが新鮮でした。孤独・孤立対策を担当していますので、本日の審議会では重要なヒントをいただき、とても勉強になりました。

高橋課長

最初は人権の審議会ということで重いテーマかと思いましたが、皆様から高齢者が生き生きと暮らすための大変貴重な意見をお伺いできました。今後の業務を進める中で本日の話を参考にさせていただきます。

細野課長

私から先ほど紹介した例は重たいものでしたが、居場所が外にあれば問題は起きにくい

と思います。私も過去に居場所づくりの事業を担当しましたが、行政の考えだけで居場所を用意すると大抵失敗してしまいます。だからこそ、区民・民間主導で行う事業を区が支援する形が良いのではと考えています。本日はありがとうございました。

岸会長

では、最後にテーマを発表して頂いた石井委員から本日の感想をお願いいたします。

石井委員

このような機会に自分の考えや思いをお話しできたことは嬉しかったです。私自身が強く思うことは「心身共すこやかに人生を楽しむ」ということです。身体だけではなく、心も健康であることが重要です。若い時から高齢者になった自分を想像することも必要かと思います。また、区役所1階のナカノバに行くと世代関係なく集まっているのを目にします。ナカノバがより有効活用され、世代間交流が活性化すれば良いと思っています。

岸会長

ありがとうございました。

紹介が遅れましたが、今日の審議会では「グラフィックレコーディング」を導入させて頂きました。ここで話した内容はグラフィックレコーディングという形でまとめさせて頂き後日皆様に共有をさせて頂きます。

では、事務局から連絡事項があればお願いいたします。

事務局

次回の審議会の日程についてお伝えをさせて頂きます。次回は5月又は6月の開催を予定しております。詳細については、会長・副会長と調整のうえ、委員の皆様へお伝えをさせて頂きます。

また、次回審議会のテーマは「つながり」です。テーマ発表の担当委員は小川委員、小山委員となります。次回審議会の進め方等については、審議会前に発表委員、正副会長、事務局で事前打ち合わせの場を設けさせて頂きます。

岸会長

ありがとうございました。本日の審議会はこれにて閉会とします。委員の皆さまお疲れ様でした。